

6月10日(土)～7月9日(日) 満月セレクト

－ 今回のセレクトター ご紹介 －

Music Selector : ニック・ラスコム





ニック・ラスコム

BBCでレギュラー番組を持つロンドンのDJ。常に世界中の良質な音楽を見つけてはラジオ番組や生のDJを通じてそれを多くの人とシェアする、1ヶ所には留まることが出来ない幅広い知識を持つ音楽好き。BBC Radio 3の深夜番組Late Junctionに出演する傍ら、自分で制作し、数多くのラジオ局に配給する週に一度の番組Flomotion Radioも作り、世界中の都市のために新しい音楽を委託するMusicity機構の創設者でもある。


今回のセレクトCD

- 

1. Kadhja Bonet / The Visitor (Fat Possum FP1576-1)
ロス・アンジェレスのカジャ・ボネーの甘くソウルフルな歌声は、60年代を彷彿させる雰囲気があり、久しぶりに『美声』と出会ったと感じ入りました。このアルバムで多くの楽器を一人で操る才能豊かな彼女は、上手にミーディ・アム・テンポのグルーヴを贅沢にアレンジしています。
- 

2. Benny Sings / Studio (JAKARTA 093)
2003年に「Champagne People」でデビューしたベニー・シングズはアムステルダムを拠点とするシンガー・ソングライターで、今や懐かしい70年代から80年代のソウル寄りのポップを得意とします。最新作の「Studio」は傷心と恋愛の曲が中心で、素敵なメロディと独自のグルーヴに溢れています。
- 

3. Thundercat / Drunk (Brainfeeder BRC-542)
「Drunk」は多くのジャンルにまたがるアメリカのベーシスト/プロデューサー/ヴォーカリストであるサンダー・キャットことスティーヴン・ブルーナーの新作です。今回はケンドリック・ラマー、ファレル、マイケル・マクドナルド、ケニー・ロギンズ、カマシ・ワシントン、フライング・ロータスといった多彩なゲストも迎えており、スリル満点で大変楽しい音楽の旅となっています。「東京」も要注目!
- 

4. Hannah Peel / Awake But Always Dreaming (My Own Pleasure MOP04)
演奏者であり、歌手であり、プロデューサーでもある北アイルランド出身のハナ・ピールによる実験的なポップ・ミュージックの素晴らしい作品です。ドリーミーなポップにフォークやエレクトロニカの要素を組み合わせた彼女の曲は独創的でドラマに富んでいます。
- 

5. Arthur Verocai / Arthur Verocai (P-Vine PCD-17749)
ブラジルのミュージシャンでプロデューサーでアラインジャーのアルチュール・ヴェロカイのこの1972年の傑作アルバムは、最近まで巨額で取引されるレア・アイテムでした。幸いにこの前復刻され、新たなファンにも聞かれるようになっています。29分というコンパクトな作品ですが、量より質です!